

## お盆のご案内です

この春は寒暖の差が激しく、衣替えをするのにずいぶんと悩まされました。皆様も体調を整えるのにご苦労されませんでしたか。今夏は暑さ厳しくなるそうです。今のうちに心身の準備をしておきましょう。

圓久寺では、7月から8月のお盆までの約1ヵ月間を「お盆月間」とさせていただきます。よく頂くご相談に「お盆は7月、8月どちらに勤めればよいのですか」と迷われる方が多いのです。地域によって異なる場合もあり、実家が8月お盆なので我が家も8月にしたい、という希望があったりします。実際、横浜川崎の方でも7月に勤める方、8月にする方、半々です。

お盆の迎えかたには、

**お坊さんを自宅に招いて供養する。** 棚経(たなぎょう)と云います。ご家族と一緒に参ります。7月は、12日～15日までの4日間、8月は、13日～15日までの3日間と16日17日の土日にご希望される方も受付させていただきます。また、この期間は朝9時から、夕方5時位まで廻らせていただきます。

**お盆法要にお参りする。**

8月9日(土) 午後2時より

圓久寺本堂にて(13時より受付開始)

お盆供養料は1家族5000円です。また、お塔婆供養は1基3000円です。

車でお越しの方、臨時駐車場も含め約20台分のスペースがありますが、なるべく電車等でお越しください。

ご家族には、ハガキを同封させて頂きました。7月末ま

で返信してください。

**新盆を迎える方は、**

ご自宅で営む、圓久寺お盆法要にお参りする、霊園の施設で行う、いずれかになります。「お盆月間」の中で日程を組んだらいかがでしょうか。(土日を希望する方が多いです。早目にお申し込みください)

不明の点は遠慮なくお問い合わせください。

## 仏教のことば 「人間」

私達は「にんげん」と読みますね。本来の意味は「じんかん」人の住むところ、この世の中、を表わしました。社会のなかで多くの人と交わり、他者を幸せにしていくことが仏教の目的です。「人はひとりでは存在できない。人と人との間にこそ生きるもの」なのです。マザーテレサが人々に質問をしました。「愛」の反対語はなんですか?と。多くの方は「憎悪」と答えましたが、彼女は「無関心でいること」と答えました。今、我々の社会はどうでしょうか。隣に住む人の顔を知らなくても、何が起きていようとも我関せずで成立しているこの社会、もっと関心を持ちましょう。道端で、電車の中で、困っていそうな人がいたら勇気をだして声を掛けられるようにありたいですね。

「あなたが100人に微笑みかければ、100人の心がなごむ。

あなたが100人の手を握れば、100人がぬくもりを感じます」

マザーテレサ

子供たちが「そんなの関係ねえ」と言ったら、「みんな関係ある」と教えてあげましょう。

## 仏様の教えを実践しましょう

「我慢」という言葉は日常よく使われますね。試練に耐える、欲しいものをこらえる、と理解しています。本来の意味は「慢心した自分」です。人間は「我・が」を持っています。素直さ、謙虚さを無くしたとき、この厄介なうぬぼれが出てきます。「俺こそ、私こそ」というやつです。慢心した心からは「あなたこそ」「おかげさまで」という言葉は出てきません。仏様が「法華経」の教えを説こうとされたとき、説法の場にいた一部の弟子たちが「もうけっこうです」と退席してしまいました。仏様は彼らを引き留めませんでした。彼らは「増上慢」になってしまったのです。今まで教えを頂いて一生懸命に精進してきたはずです。しかし、私は悟りを得たのだ、と慢心したのです。このことは私達の中にもあること。他人事ではありませんね。

いつも他人の悪口、不平不満を言う心  
人より自分は優れているとばかり他者を馬鹿にする心  
自分1人で大きくなったとばかり父母を粗末にする心  
夫を、妻を、家族を大切にしない心  
ありがとう、ごめんなさいを言えない心  
他者の幸福をねたむ心  
職場の上司や学校の先生を馬鹿にする心  
自分はいつも正しい、と思う心

などなど。ざっと書き出してみましたが、もっとたくさんあるはずです。書いている間自分の心が重たくなりました。自身に覚えがあることなのです。みなさんも「自分」を見つめてみましょう。誰にでも必ずあります「慢心」「うぬぼれ」は。ですから決して恥ずかしいことではありません。「自分」にこそ、一番関心を持たなくてはなりません。

## 南風（はえ） 南方から吹く夏の風

春の東風(こち)冬の北風と並ぶ夏の季節風のことを表します。梅雨の終わりころに明るく、軽やかな風を「白南風」と呼ぶそうです。年々、夏の時期の雨風も強力になり、以前のように穏やかなしとしと雨が少なくなってきたように思います。温暖化の影響により、台風も大型になるそうです。台風の存在は人間にとっては歓迎されませんが、南の海、それもサンゴにとっては救世主の存在だそうです。強力な風によって深海の冷たい水が上昇し、サンゴたちの生命力を高めるのだそうです。我々人間だけの「世界」ではないのですね。生きとし生けるものすべての「世界」なのだ、ということをしっかりと反省しなくてはならないと思います。

中国四川省の大地震、ミャンマーのサイクロン、ともに自然の力の前では人間がいかにも無力であるかということを感じ知らされました。政府が面子などにこだわらず、もっと早く援助を受け入れていれば、と残念に思うばかりです。日蓮聖人は、国に起きる天変地妖の原因は、権力者が正しい教え(民衆のことを第一に考える)に従わず、政治を行っていることへの天からの警告である、と言われました。中国、ミャンマー、この国々に起きた大災害は偶然ではなかったのです。

お互いに敬いあって平和な地球を造りあげていくことが仏様の願いなのです。みんなの地球であり、わたしの地球なのですから。

おかげさまで  
あなたこそ